

# 「心中天の網島」と「ロミオとジュリエット」の共通点の考察

キルステン・フロート

## 1. はじめに

江戸時代の有名な作家である近松門左衛門は、イギリスのシェークスピアと同じぐらいに他の作家に影響を与えたので、「日本のシェークスピア」と呼ばれることがある。例えば、Robert Nichols と Asataro Miyamori の『Masterpieces of Chikamatsu: The Japanese Shakespeare』という本のタイトルは日本語で「近松の名作：日本のシェークスピア」である。そこで、多くの研究者は、近松とシェークスピアの作品、特に「曽根崎心中」と「ロミオとジュリエット」を比べている。

本研究では、近松の「心中天の網島」と「ロミオとジュリエット」の共通点を明らかにすることを目的とする。「心中天の網島」の男性主人公に子供がいるので、「曽根崎心中」より「心中天の網島」の心中の方は、ロマンティックの面があるのに、悲観的な面もある。そのため、間違いによる心中がある「ロミオとジュリエット」と比べることを決めた。

楚輪松人 (2013) が述べているように、近松とシェークスピアはどちらも「リーベストド」のテーマを扱っている。「リーベストド」というのは、ドイツ語の「愛死」で、心中と同じ意味である (楚輪松人、2013、43)。しかし、そのテーマ以外の共通点もあると思う。本論文では、「心中天の網島」と「ロミオとジュリエット」の心中以外の共通点について論じる。「心中天の網島」と「ロミオとジュリエット」の内容を比べ、共通点について考察し、共通点は人物の性格や状況、役割であるという主張を導く。

## 2. 「心中天の網島」

鳥越文蔵 (1998) によると、「心中天の網島」の初演は享保五年 (1720) 十二月六日に竹本座であった。近松は、この悲劇を書いた時六十八歳だった。

重要な登場人物は、小春 (遊女)、紙屋治兵衛、おさん (治兵衛の妻)、粉屋孫右衛門 (治兵衛の兄)、五左衛門夫婦 (おさんの実父と治兵衛の叔母)、太兵衛 (治兵衛の恋敵) である (鳥越文蔵、1998、384)。

上之巻は、曾根崎が舞台である。紙屋治兵衛と小春の恋愛の問題が紹介される。治兵衛は小春に三年ぐらい恋しているが、小春を買うためのお金がない。一方、太兵衛という男はお金が十分で小春を買うことを望む。小春は、治兵衛と心中の約束をしたのに本当は死にたくない侍の姿の孫右衛門に言うと、すべてを聞いた治兵衛は腹を立てた。中之巻は治兵衛の家に行く。噂を機会に孫右衛門と治兵衛の叔母は訪ね、治兵衛が小春を買わないと誓ってほしい。治兵衛はそうするが、兄と叔母が去った後、泣いている。おさんは着物を売るつもりであるが、父はおさんを連れ去る。下之巻は心中の幕である。小春は太兵衛に買われ、次の朝でかける予定である。そこで、治兵衛は夜に曾根崎に行き、小春と逃げる。網島で小春を剣で殺した後、自殺する。

## 3. 「ロメオとジュリエット」

荒井良雄 (2002) によると、「ロミオとジュリエット」は 1597 年にクォートで初めて出版された。

重要な登場人物は、キャピュレット家に属する人物やモンタギュー家に属する人物である。キャピュレット家は、ジュリエット (娘)、キャピュレット (家長)、レディーキャピュレット (同妻)、ティボルト (ジュリエットの甥)、ジュリエットの乳母、パリス (ジュリエットの婚約者) である。モンタギュー家は、ロミオ (息子)、モンタギュー (家長)、レディーモンタギュー (同妻)、ベンヴォーリオ、バルサザーである。その他には、キャピュレ

ット家とモンタギュー家と、どちらにも属しない重要な人物はロレンス（修道僧）やプリンス（ヴェローナの王子）もいる。

作品は、五つの幕がある。第一幕は、キャピュレット家とモンタギュー家の敵意を紹介する。失恋で悲しいロミオは、キャピュレット家のパーティーに行き、そこでジュリエットに会う。第二幕には、ロミオがバルコニーにいるジュリエットを会いに行き、好きになったと告白する。次の日、二人はロレンスに行き、秘密に結婚する。第三幕には、ロミオがティボルトを殺すので、追放され、ヴェローナから逃げなければならない。最後の夜、ロミオはジュリエットといるうちに、キャピュレットとパリスはパリスとジュリエットの結婚式を木曜日に行うことを決める。第四幕には、ジュリエットがパリスと結婚したくないので、ロレンスがジュリエットに特別な毒をあげる。ジュリエットは、水曜日の夜にその毒を飲んだら二十四時間に死者の様子があり、墓に入り、また目を開けるときに、ロミオとヴェローナから逃げる計画がある。だが、第五幕には、ロミオがジュリエットの死のニュースを聞き、店で毒を買い、ヴェローナへジュリエットの傍に死にに行く。ロミオは墓の前にパリスを殺した後、毒を飲むが、ジュリエットは死んだ主人を見ると、短剣で自殺する。

#### 4. 「心中天の網島」と「ロミオとジュリエット」の共通点

「心中天の網島」と「ロミオとジュリエット」の筋以外の共通点は何だろうか。

まず、「心中天の網島」の上之巻をみると、ナレーターは治兵衛を次の言葉で紹介する。

「天満に年経る・千早振る・神にはあらぬ紙様と、世の鱈口に乗るばかり」（鳥越文蔵、1998、393）。つまり、治兵衛は自分の責任を落とした。「振る」や「あらぬ」のような言葉によって治兵衛の第一印象は然程よくない人だろう。その後、中之巻には、治兵衛の叔母と兄が小春を買いたい大臣の噂について話した後で治兵衛が泣いているシーンがある。このシーンには、「火燵に治兵衛またころり、かぶる布団の格子縞・まだ曾根崎を忘れずかと、あきれながら立ち寄つて・布団を取つて引き退くれば、枕に伝ふ涙の滝、身も浮くばかり泣きゐたる」と書いてある（鳥越文蔵、1998、408-409）。つまり、治兵衛は、紙屋を営むことや子供の面倒を見ることをせずに、布団に入り泣いているのである。その後の下之巻には、心中のシーンがある。「子供の行方、女房の・あはれも胸に押し包み」と書いてある（鳥越文蔵、1998、425）。子供と妻を心配しており悪い感じになるのに、やはり自殺する。以上のことから、治兵衛は無責任だと考えられる。

次に、「ロミオとジュリエット」の第二幕を見ると、ロミオが追放された後でロレンスと話すシーンがある。ロミオはジュリエットがいるヴェローナを出るくらいなら死にたいと言うと、ロレンスは次のように言う。

‘Art thou a man? Thy form cries out thou art;/Thy tears are womanish; thy wild acts denote/The unreasonable fury of a beast;/Unseemly woman in a seeming man!/Or ill-beseeming beast in seeming both!’ (Shakespeare, 2009, 68)

つまり、ロミオは女のように泣いており、獣のように狂乱していると言う。それに、ジュリエットの乳母は来るとき、ロミオがどこにいるかと聞くと、ロレンスは次のように言う。

‘There on the ground, with his own tears made drunk’ (Shakespeare, 2009, 129)

つまり、ロミオが床で泣いていると言う。その後、ロレンスはロミオに ‘Thy noble shape is but a form of wax,/Digressing from the valour of a man;’ とも言う (Shakespeare, 2009, 132)。つまり、高貴な姿があるのに立派な男ではないと言う。このことから、ロミオが弱くて治兵衛のように無責任だというイメージが読み取れる。

また、「心中天の網島」と「ロミオとジュリエット」は同じような状況がある人物がいる。その人物は小春とジュリエットである。まず、小春とジュリエットはどちらも愛していない男のもとに行かされる予定がある。小春は太兵衛に買われ、ジュリエットには父がパリスと結婚させる。次に、小春とジュリエットはどちらも治兵衛・ロミオについて否定的なことを

言ったことがある。小春は、侍の姿である孫右衛門と話すとき、治兵衛について次のように言う。

「私とても命は一つ・水くさい女と思し召すも恥づかしながら・その恥を捨てて、死にともないが第一・死なずに事の済むやうに、どうぞ／＼頼みやすと」（鳥越文蔵、1998、395）「比興な頼みごとながら・お侍様のお情け・今年中・来春二、三月の頃まで・私に逢うてくだんして。かの男の死にに来るたびごとに邪魔になって、期を延ばし／＼・あのづから手を切らば・先も殺さず、私も命助かる」（鳥越文蔵、1998、396）

つまり、小春は死ぬのが怖がると口を割り侍が手伝ってほしいと言う。治兵衛が悪い人だと言うわけではないが、治兵衛と死ぬ約束したのに、死にたくなく別れたいと言うので、否定的な言葉だと考えられる。

ジュリエットは、母とティボルトの死について話すとき、次のように言う。

‘Indeed I never shall be satisfied/With Romeo till I behold him—dead—/Is my poor heart so for a kinsman vex’d:/Madam, if you could find out but a man/To bear a poison, I would temper it,/That Romeo should, upon receipt thereof,/Soon sleep in quiet. O, how my heart abhors/To hear him nam’d,—and cannot come to him,—/To wreak the love I bore my cousin Tybalt/Upon his body that hath slaughter’d him!’ (Shakespeare、2009、143)

つまり、ジュリエットはレディーキャピュレットにロミオを自分で殺してティボルトの仇を討ちたいと言う。やはり、この言葉は嘘である。ジュリエットとロミオが結婚したことは秘密なので、ジュリエットはこのシーンで誠にもって話せない。小春とジュリエットの言うことはまったく違うが、否定的な面はほとんど同じだと言えよう。

また、性格と状況の他に、「心中天の網島」と「ロミオとジュリエット」はどちらも同じような役割がある人物もいる。その人物の二人は太兵衛とパリスである。どのような役割があるかという点、時間的制約を来す第三者である。すなわち、彼らは主人公の周りにいるので、主人公は時間がなくなる感じがする。これを説明するために、パリスと太兵衛がいない可能な事態について考えよう。太兵衛がいないと、治兵衛は小春を買うためのお金を得る時間があるかもしれない。その場合は、おさんに構わなさそうなので、治兵衛が小春を買え、二人で自殺しない可能性がある。このように、パリスがいないと、ジュリエットは毒を飲む必要がなく、ロミオがプリンスの許しをもらいヴェローナに戻れるときを待つ時間があるので、自殺する理由がない。ストーリーは断然この風になるわけではないが、太兵衛とパリスがいない場合は、確かに心中が起きない可能性がある。

太兵衛とパリスの他には、同じような役割がある孫右衛門とロレンスもいる。彼らはどちらも理性的な人で自殺のような軽率な行動に対して批判的であると言える。例えば、孫右衛門は小春に、心中が小春のせいだと言われるはずで顔の泥を塗ると言う。そして、ロミオが絶望で自分の命を取りたいとき、ロレンスは、プリンスの許しを頼み待つうちにマントゥアに泊まるという別の方法を指定する。これより、孫右衛門とロレンスの役割はほとんど同じだと考えられる。

## 5. おわりに

本研究では、近松の「心中天の網島」とシェークスピアの「ロミオとジュリエット」の心中以外の共通点について考察した。

その結果、共通点は治兵衛とロミオの性格や小春とジュリエットの状況、太兵衛・パリスと孫右衛門・ロレンスの役割であることが明らかになった。治兵衛とロミオはどちらも無責任な性格があると言える。小春とジュリエットは太兵衛とパリスのもとに生かされ、それに、両人物は男性主人公について否定的なことを言うので同じような状況があると考えられる。また、太兵衛とパリスは恋敵として時間的制約を来し、孫右衛門とロレンスは理性的な人物として主人公にアドバイスをするので、同じような役割があると言える。

本研究では、両作品の共通点の紹介しかできなかった。これらの共通点が存在する理由については、今後の課題としたい。

## 文献

荒井良雄、大場建治、川崎淳之助（2002）『シェークスピア大辞典』（シリーズ名）日本図書センター

栗原剛（2017）「『心中天の網島』における罪業と救済」『山口大学哲学研究』第24巻、pp. 1-19

中臺希実（2014）「『心中天の網島』から考察する町人の「家」に対する心性、および死生観について-」『情報コミュニケーション研究論集』第8巻、pp. 35-51

楚輪松人（2013）「A Study of The Love Suicides at Sonezaki: A Unique Liebestod of the Japanese Taste」『人文科学編』第9巻2号、pp. 43-55

鳥越文蔵、山根為雄、長友千代治、大橋正叔、阪口弘之（1998）『近松門左衛門集』（日本古典文学全集、第75巻）小学館

Nichols, Robert ; Miyamori, Asataro (2010) *Masterpieces of Chikamatsu: The Japanese Shakespeare*. London: Taylor & Francis Group

Shakespeare, William (2009) *Romeo and Juliet*. S. l. : The Floating Press